

令和3年度 第1回東広島市環境審議会 議事要録

■日時：令和3年7月30日（金） 13:00～15:00

■場所：東広島市芸術文化ホールくららサロンホール（303）

■出席者：《配席表及び委員名簿参照》

○委員：西嶋会長、杉原委員、市川委員、渡邊委員、小倉委員、橋野委員、加栗副会長、弓場委員、中島委員、川口委員、白男川委員、井上委員、石川委員、瀧鍵委員、伊関委員

○事務局：生活環境部 弓場部長

生活環境部兼廃棄物対策課 大歳次長

廃棄物対策課 高橋課長補佐

環境先進都市推進課 波谷統括監、山根課長、水戸参事、荒木係長、向谷主査

中外テクノス株式会社 橘、山崎、山下

○欠席：水野委員、日山委員

■ 配布資料〔○印は事前配布資料〕

○次第

○環境審議会委員名簿

配席表

○資料1：第2次東広島市環境基本計画の策定について【概要版資料】

○資料2：第2次東広島市環境基本計画（素案）

○資料3 数値目標に対する評価報告（達成状況）

東広島市の環境（環境白書） 令和2年度版

■議事概要

1 開会

- ・事務局による開会
- ・今回から出席された方の自己紹介（川口委員）
- ・東広島市環境審議会の成立要件

2 議事

（会長）

まず、事務局から会議資料の確認をお願いしたい。

（事務局）

（会議資料の確認）

審議事項：第2次東広島市環境基本計画の策定について

(会長)

それでは、審議事項の「第2次東広島市環境基本計画の策定について」事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

(会議資料1、資料2の説明)

(会長)

ただ今の事務局の説明について、質問等はあるか。

(委員)

前回と比べて見やすくなっている。

社会的動向に盛り込まれている、海洋プラスチックごみ問題や、瀬戸法の改正はとても大切な項目である。

今回新たに追加された光環境の保全について、市民には無駄と思えても企業にとっては大切な場合もある。市として光害をどういう風に抑制していくように考えているか。

(事務局)

光害対策について、LEDの導入により指向性がついて、夜空を照らさない形になってきた。市としては、光源に傘をつけるなど、一定の配慮指針を何らかの形で示せればと考えている。

環境省で夜空の明るさを測定する調査が行われており、市でも憩いの森で今年の冬から調査を行っている。その結果も審議会にて報告したいと考えている。

ただ、環境と経済と社会の両立が重要であるため、産業活動と市民の日常生活を考慮しつつ、光環境の保全の落としどころをつけていきたい。

(副会長)

「カーボンサイクル」について、言葉の意味を注釈に入れて頂きたい。

評価指標(案)の「希少生物の指定数」について、東広島市には希少生物はいないのか。

(事務局)

全般的に分かりやすい内容を心がけ、注釈はそのページにつけていきたい。

希少生物について、東広島にも多く生息し、調べれば調べるほど発見される場合が多い。指標として把握すべき種を指定し、管理していくという意味合いである。

(会長)

資料だけみると指標について誤解してしまうため、素案では修正していただきたい。

(委員)

数値目標について、10年経過すると環境も変わる。3年後か5年後にマイルストーンを設定し、途中で見直すことができるようにすべきではないか。

(事務局)

今回、大きい見直しとして、環境先進都市ビジョンとの統合というのがある。

環境施策のうち、プロジェクトとして進めるものは環境先進都市ビジョンの中で、行動計画（マイルストーン）を策定し5年スパン程度で進行管理していくことになっている。

（委員）

今回から、SDGsを含めた目標設定となりとても分かりやすくなったと思う。

東広島市は、SDGs未来都市に選定されたが、どのような分野（選定基準）で未来都市に選定されたのか。

（事務局）

環境、社会、経済を総合的に施策展開するとさせてもらったが、特徴として掲げたのは大学との連携である。国際学術研究都市を前面にだした。若い世代が常に一定数を占め、多いという特性を生かして、SDGsを展開する部分が評価されたと思う。

（副会長）

太陽光の反射熱や放射熱という問題も波及すると思われるが、今回の計画に追加することは考えているか。

（事務局）

太陽光パネルの熱がどこまで影響を与えているかは、把握できていない。

自然環境への影響などについては、環境配慮ガイドラインに沿って進めることになっている。

ただし、最近ではメガソーラーを作る話は聞いておらず、廃棄する際の基金積立も行うようになっている。自然環境への侵略性は抑える形で進めてもらうように記載していきたい。

（副会長）

太陽光パネルの顕熱や反射熱で熱中症となるとも言われる。脱炭素を進めるうえで、今後熱の問題も含めて注視してほしい。

また、土砂災害に対する太陽光パネルの設置基準が必要と思われる。

（事務局）

ハザードマップの記載箇所には設置しない方向で議論が進んでいると聞いている。

（委員）

素案のp2～3辺りに、これまで（第一次計画）の取組の総括（見直し）を加えてほしい。

また、光害（素案p49）の目標が現状維持のため、もう少し上を目指した目標にならないか。取り組みについても、ガイドラインに従うとあるが具体性に欠ける。

p39の都市公園面積を0.1m²を10年かけて増やすより、質の方が大事ではないのか。公園の質の話に切り替えたほうがいいのではないか。

（事務局）

第一次計画の総括（見直し）については、追加する。現在、p14～19に振り返りを記載しており、指標の評価をしたいと思う（この目標はあまり意味がなかったなど）。

光害の目標について、現在の計測では、憩いの森公園において、良好な市街地にぎりぎり足りないという結果であり、目標をどうするか悩んでいる。

都市公園の面積を含め、各取組みの柱については引き続き関係課と協議を重ね、検討する。

(委員)

ごみの排出量について、現在スーパーの回収BOXへの持参量というのは市の統計に反映されていないと思う。県の環境基本計画では大手スーパーに協力頂いて、データを集めている。市としてもデータを入手して、市民の活動として評価してはどうか。

市民一人あたりの排出量は、リサイクルなどが進んでいくと下がらなくなる。大事なのは、埋立や焼却のごみの抑制である。目標設定の考え方として、排出量のうち、再資源化された数値が増えているという評価などあるとよい。

水辺環境とふれあえるまちづくりについて、川に降りることができる場所が少ない。新たにそのような環境を作成するだけでなく、既存の川に降りることができる場所を紹介することも大切である。

(事務局)

スーパー等における回収量を広島県で収集しているということについては、把握していない。今後、市の取組みに入れるかどうかは検討したい。リサイクル率について、資源化してもごみの総量としては減少にならないのが悩みではあるが、p59に資源化率の目標を設定している。

水辺環境とのふれあいについて、市のPR不足は否めないで、情報を集めて発信していく。

(委員)

西條商事としては、年間10トンのうち2トンのリサイクルとして回収している。広島市では、ごみ減量実行委員会があり、データをまとめたり目標値を設定したりしている。データの提出は可能なので、東広島市で取りまとめをしていただけたらありがたい。

(委員)

資源化率を上げても、ごみの量が変わらないとはどういうことが説明してほしい。

(事務局)

市のごみステーションへ持ち込んで頂いた場合、リサイクル率は上がるが、それもごみとしてカウントされるため、総量は変わらない。

西條商事様などで回収してもらえれば、その部分は市のごみとしてはカウントされない。

(会長)

焼却や埋め立てごみが一番問題となるものであり、リサイクル量が増えるのは良いことであり、総量が減少しなくても意味はある。

(委員)

市民アンケートの結果などにn数をいれるべきである。

また、自然環境の保全も大切だが、最近では鳥獣被害の問題もあり、海では貧栄養により養殖業に影響が出ている。光害についても、暗くなりすぎると市街地では防犯上の問題もある。このような問題も記載することができるか。

(事務局)

鳥獣被害について、里山の保全は大切であるが、何らかの形で取り入れたい。

海に関しては富栄養化と貧栄養化のバランスが重要であるが、最終的に豊かな海を目指すという内容としたい。

アンケート調査について、漏れなくやっているつもりではあったが、何かあればご指摘いただけると助かる。

(委員)

昨今、オープンデータが増えてきているが、非常に使いにくい形式のものが目に付く。今後のことを考えると、東広島市としても使い勝手の良いオープンデータベース作りに力を入れてもらいたい。

(事務局)

現在進めている途中であり、集約したものを考えている。ここ3年程度を目安に進めるつもりである。

(委員)

資料3について、実行する（担当する）人が記載してあるとわかりやすい。

また、骨子の早い段階に掲載し、その後説明があればわかりやすい。

さらにいえば、それぞれの項目にかかる経費が記載できれば、具体的な判断材料になる。

(事務局)

資料3は現計画の達成状況であり、内容については後ほど説明させていただく。

第2次計画においても、現計画の振り返りを記載するページがあるため、そこに記載する。

各施策と指標を取りまとめたものを作成するつもりではあるが、ページ数の関係もあるため検討する。また、担当者と予算について、環境基本計画となると幅が広すぎるため、進捗管理時に示させてもらうなどの検討をさせていただきたい。

(副会長)

ごみの問題や水辺の話もあったと思うが、環境問題は同じことの繰り返しではなく、常に新たな視点とアクションが必要と考える。

(委員)

CO₂のデータについて「その他ガス」は事業所はどこか。

(事務局)

半導体工場である。その他ガスは半導体製造時に発生するものである。先般、国は基準年から26%の削減から20%上乗せして46%を目標としている。内訳をみるとその他ガスは減らさないことになっているため、東広島市の目標値については再検討予定である。

(委員)

国の46%削減は根拠を出しているのか。

(事務局)

分野ごとの目標は出ているが、CO₂の排出係数をどこまで減らすかまでは出ていない。

(委員)

CO₂の排出に関して素案に再生可能エネルギーの導入促進の中で、課題として市民アンケートの結果「太陽光発電を行っていない、今後も行わない」が66%となっている。この今後も行わない理由を把握しているか。

(事務局)

おそらく行わない理由は費用面だと考えられる。売電の効果が当初より低くなってきている。

(会長)

今回新しく海洋プラスチックやカーボンサイクルなど入っているが、これらは個別の話になりがちであるため、有機的につなげていただきたい。どういうストーリーでいくと問題が解決していくのか少し工夫して検討して計画に掲載して欲しい。

SDGsを入れたことは非常に良いことだと思う。SDGsは市民も企業も良く知っているし、大事なことになっているため、SDGsを接着剤にして企業と一緒に取り組む形で検討していただければ、ある程度協力もしやすくなると思う。

報告事項：環境基本計画（現行計画）の数値目標に対する評価報告について

(会長)

それでは次に数値目標について事務局に説明をお願いする。

(事務局)

（会議資料3の説明）

(委員)

今まで取り組まれた項目との連続性について知りたい。例えばS-TOWNの事業など今まで取り組んできた具体的内容について、今後の項目のどこにあてはまるのか知りたい。

(事務局)

今後検討したい。

(委員)

「水辺環境の保全とふれあい」について現況数値から下がっているがその理由は何か。

(事務局)

直接的な理由ではないかもしれないが、近年の豪雨災害の影響もあるかもしれない。川に近づくなという意識もあるのでないか。

(委員)

東広島市環境基本計画は今後公開されていくものか。

(事務局)

東広島市環境基本計画は環境審議会で協議したものを今後ホームページ等で公開していく予定である。

(委員)

計画の内容について分かり易く楽しめるような工夫をしてほしい。

(委員)

施策の評価については議会や市の関係部署で実施していただければ良いと思う。

(事務局)

市の施策について推進していくためには説得力も必要である。環境審議会の委員の皆様のご意見も参考にしていきたい。

市の施策を検討する際に予算の話が出てくる。予算については国の交付金も考慮して市の独自

の視点で環境配慮していく必要がある。また、SDGsやカーボンリサイクルなどの視点を計画に取り入れていく必要もある。自然環境について一番前にもってきたのは、前回の会議でのご意見を受けて反映している。西嶋会長のご意見のとおり、ストーリー性も必要と考えている。市民、事業者の皆様が分かりやすい表現にしていく必要もある。市としては環境配慮指針のようなものをつくって予算化等につなげていきたいと考えている。

(委員)

環境活動事例集はもっと認知されれば良い切り口になると思う。東広島市で環境に関連した活動を集めて掲載してはどうか。環境活動事例集の中に計画の一部を掲載しても良いと思う。

(事務局)

現在はエコネットひがしひろしまの会員の事例を掲載しているが、理想としては会員が自ら情報収集して掲載していくことである。

(委員)

エコネットひがしひろしまは、環境審議会と関係しているか。

(事務局)

関係している。基本計画の市民と事業者部門の進捗管理を行う団体として存在している。

(委員)

「すきかも」に登録されているか。いろいろな団体が登録されているので、そこからも情報が集まるのではないかと思う。

(副会長)

エコネットひがしひろしまの事例集を参考にしながら活動を推進すると良いと思う。

(事務局)

今回の議論を踏まえて、素案を作成予定である。作成したものを8月下旬から9月初旬にかけて皆様に送付し、みていただきたい。ご意見を反映させたものを次の審議会で議論する予定である。

3 閉会

- ・事務局による閉会